

保育者効力感と親からの自立

岩 井 勇 児

問題と目的

これまで、本学に赴任して以来の期末試験の答案、授業評価の分析(岩井 1998, 1999)、および保育者意識についての調査(岩井 2000, 2001)などからみて、本学の学生に欠けているのは、自我の成熟であることを指摘した。昨年度は、建学の精神「愛をもって仕えよ」について、自我の成熟と関連づけた意識調査を実施して報告した(岩井 2002)。ここにおいても、学生たちの理解する愛は、聖書の愛とは無関係な未成熟なものであった。

こうした視点から、保育者養成においては、保育者自身の自我の成熟が重要であり、そのための訓練が必要であると感じ、私なりに担当している教育心理学や保育職論の授業において、知識の伝達だけでなく、受講態度の訓練などを通して、自我について考えさせてきた。今回は、こうした教育のための資料を得るために、少し視点を変えて、保育者の資質に関連した学生の実態を把握しておきたいと思った。

ひとつは、保育者意識について、もう少し尺度化した資料が欲しいと思った。そこで、三木・桜井(1998)の作成した保育者効力感尺度に手を加えて、保育者意識を測ることにした。三木・桜井は、教師効力感尺度を、保育者に合うように修正して、これを保育者効力感とした。保育者効力感とは、「保育場面において、子どもの発達に望ましい変化をもたらすであろう保育的行動をとることができる信念」と定義している。

もう一つは、自我の成熟に関して、日常生活における親からの自立という視点から見ることにした。学生の学校における日常の行動、あるいはこれまでの調査などからみて、親から離れて自立した生活をする能力が育っていない感じのする学生が、いるような気がするからである。言い換えると、学生たちが自我の未成熟なままに育っているのは、日常生活において親から自立していないか

らだ、と考えた。

そして、保育者効力感の高いものは、親からの自立の意識も高く、保育者効力感の低いものは、親からの自立意識も低い、というように、保育者効力感と親からの自立には、相関関係があるのではないかと考えた。本研究の目的は、保育者効力感と親からの自立について、探索的資料を得ることにある。

方 法

(1) 調査用紙の作成

専攻科保育専攻の学生たちにも相談して、以下のような項目から調査用紙を作成した。

①保育者効力感尺度

三木・桜井の保育者効力感尺度 10 項目は、教師効力感尺度の手直しのためか、指導あるいは教えることの項目に偏っている。そこで、子どもを支えるあるいは援助することに関する項目を 5 項目加えて、15 項目の尺度を作った。

②親からの自立に関する項目

親からの自立に関しては、評定尺度のほかに、自由記述で親からの自立の内容に関する回答を求めた。また、PF スタディ形式で、家離れに関して回答を求めた。

- a. 親から干渉されること・叱られること 自由記述
- b. 親からの自立についての評定 5 段階尺度
- c. 友人の自立についての評定 5 段階尺度
- d. 私が親から自立していること 自由記述
- e. 私が親から自立していないこと 自由記述
- f. 絵の吹き出し「あなたは、結婚しないで、いつまでもこの家に、いるつもりではないでしょうね」に対する回答。

③自立に関する日常行動の項目

親からの自立に関連しそうな日常行動に関して、いろいろな面から学生の実態を調べる項目を作成した。

- a. 家族に関して：自宅通学、きょうだい等
 - b. 日常生活で親にしてもらっている程度
 - c. 食生活
 - d. お金に関すること：学費、小遣い、アルバイト収入、アルバイト時間等
 - e. ダブルスクールについて
 - f. 職業について
 - g. 結婚について
- これらの項目から作成した調査票は、末尾に添付したので、参照されたい。

(2) 調査の実施

- ①調査対象：保育科2年生保育職論受講者、180名。
- ②調査時期：2002年11月。
- ③実施：授業時に実施。無記名。教示は保育専攻学生栗島、不破が担当。

結 果

集計整理にあたっては、調査内容からみて不適切な対象なので、自宅外通学者、既婚者、保育者を志望しない者を除いた。集計対象は162名であった。特に断りがない場合、各表ともn=162である。なお、無回答は掲載していないから、パーセントの合計が100にならない場合もある。また、いろいろな都合で、今回集計から省いた項目もある。

(1) 保育者効力感について

保育者効力感の15項目についてについて、因子分析を行った。その結果、子どもに対応した指導ができるなど、「指導する、教える」などの因子と子どもと気が通じ合う、配慮するなど、「援助する、支える」などの因子の2つに分かれた。前者を「指導力感」後者を「援助力感」と名付けた。

因子別に項目を並べて、それぞれについて、因子負荷量と5段階評定を3段階にまとめた選択率を示したのが、表1である。

選択率をみると、どちらでもない「？」が予想よりも多く、指導力感で39%、援助力感で38%ある。これは、保育者としての自分の能力や適性について、判断力、自己評価力が曖昧であることを示している。

また、項目でみると、「心を読みとる」「子ども

表1 保育者効力感の因子分析と選択率

因子	因子負荷量	思わない	？	思う	
指導力感	2 子どもの能力に応じた課題を出すことができると思う。	0.76	43	38	20
	1 子どもにわかりやすく指導することができると思う。	0.75	40	36	25
	3 保育プログラムが急に変更された場合でも、それにうまく対処できると思う。	0.74	51	33	16
	7 子どもの状態が不安定な時にも、適切な対応ができると思う。	0.63	31	46	22
	4 どの年齢の担任になっても、うまくやっているといると思う。	0.63	40	33	28
	11 子どもの心の動きを読みとることができると思う。	0.60	21	52	27
	10 子どもの活動を考慮し、適切な保育環境(人的、物的)を整えることに十分努力ができると思う。	0.56	10	33	57
指導力感全体			34	39	26
援助力感	12 子どもが安心してそばに寄ってきやすいほうだと思う。	0.71	4	25	72
	14 子どもは必ず私の言うことを聞いてくれると思う。	0.67	50	45	5
	13 子どもとなんとなく気が通じ合うことが出来ると思う。	0.66	5	36	59
	6 保護者に信頼を得ることができると思う。	0.61	17	57	26
	8 クラス全体に目をむけ、集団への配慮も十分にできると思う。	0.60	38	37	25
	9 1人1人の子どもに適切な遊びの指導や援助を行えると思う。	0.55	25	43	32
	5 クラスにいじめがあったとしても、うまく対処できると思う。	0.53	54	36	9
15 子どもの動きは、どんなことでも、すべて面白いと思う。	0.50	16	28	56	
援助力感全体			27	38	35

の不安定に対応」「保護者に信頼」「言うことを聞いてくれる」「1人1人に適切な遊びの援助」な

どが、「？」で40%を超えている。

「思う」は、全体で見ると指導力感で26%、援助力感で35%である。項目別にみると、「環境を整える」「子どもが寄ってきやすい」「気が通じ合う」「子どもの動きは面白い」が50%を超えている。

「思わない」は、全体で見ると指導力感で34%、援助力感で27%である。項目別にみると、「急な変更に対応」「能力に応じた課題」「わかりやすい指導」「どの年齢の担任になっても」「いじめに対処」「言うことを聞いてくれる」が、40%を超えている。

指導力感と援助力感を全体として比べると、「思わない」は、指導力感のほうが多く、「？」は、ほぼ同じであり、「思う」は援助力感のほうが多い。したがって、大まかにみれば、これらの項目について自分で判断できないと思うことが多く、指導力感と援助力感をくらべれば、指導力感のほうが低く、援助力感のほうがやや高い傾向がみられる。

項目別にみると、「環境を整える」など準備できること、あるいはなんとなく子どもとつきあうことは、できそうと考えているが、子どもの状況に合わせて臨機応変に指導や援助することは苦手のようなのである。また、子どもや保護者の心を読みとって対応するようなことは、自分でもよくわからないようである。

(2) 親からの自立

親から自立していることについて、本人と親しい友人について、5段階評定を求めた。その選択率を求めたのが、表2である。

表2 親からの自立意識

	%	
	私は	友人は
5. 親から自立している	1	4
4. どちらかといえば自立している	12	20
3. どちらともいえない	28	48
2. どちらかといえば自立していない	40	24
1. 親から自立していない	19	5

これをみると、「どちらかといえば」も含めて「自立している」が13%、「自立していない」が59%であり、自立していないほうがかなり多い。また、自分よりは友人のほうが自立していると思っ

表3 親から自立していること

全 体	分 類	f	%
	精神的に自立	102	40
経済的に自立	82	32	
身近生活の自立	42	17	
そ の 他	27	11	
	総 計	253	100
精神的に自立	自分で決めるなど	59	58
	親を頼らない	24	24
	行動に責任	4	4
	そ の 他	15	15
	計	102	100
経済的に自立	欲しいもの自分で買うなど	39	48
	学費以外は自分でなど	20	24
	金銭の管理をする	16	20
	アルバイトをしている	7	9
	計	82	100
身近生活の自立	身の回りを自分でする	23	55
	自分で起きる	12	29
	親に頼らず生活	7	17
	計	42	100

表4 親から自立していないこと

全 体	分 類	f	%
	身近生活について	217	52
経済的な面で	136	33	
精神的な面で	50	12	
そ の 他	12	3	
	総 計	415	100
身近生活について	日常生活全般	92	42
	食事に関して	48	22
	車で送り迎え	31	14
	洗濯・掃除など	23	11
	朝起こしてもらう	23	11
	計	217	100
経済的な面で	金銭面全般	63	46
	こづかい等	42	31
	学 費	31	23
	計	136	100
精神的な面で	困ったとき相談する	23	46
	すぐ親を頼る	19	38
	分からないこと頼る	8	16
	計	50	100

ている。

「私が親から自立していることは」および「私が親から自立していないことは」について、自由記述を求めた。記入欄は、3つ用意した。すべての記述を分類し、整理したのが、表3、表4である。

総記述数をみると、「自立していること」は253、「自立していないこと」は415であり、ここ

でも自立していないほうが多かった。

「自立していること」で多かったのは、進学、就職など、自分のことは自分で決める、親を頼らないなどの「精神的に自立」であった。次に「経済的に自立」であった。ただし、「欲しいものは自分で買う」「金銭の管理」などは、自分で稼いだお金によるのか、単に消費支出だけのことか、はっきりしない記述が多かった。ここで「身近生活の自立」としたのは、食事、洗濯以外の、朝自分で起きる、身の回りのことを自分でする等であった。

「自立していないこと」では、「身近生活について」が最も多く、食事、洗濯、掃除から日常生活全般にわたって、親に依存している記述が多かった。「経済的な面で」は、学費、こづかい、携帯電話代、交通費等の経常費だけでなく、必要に応じて臨時にお金をもらうことなどもあった。「精神的な面で」の、「すぐ親を頼る」には、親を支えとしているのほかに、親のそばにいないと不安になる、などもあった。



表5 「結婚しないでこの家にいるつもりでは」への回答

	分類	f	%
出ていくよ	結婚して出ていくよ	42	38
	いるつもりはない、出ていくよ	27	
条件次第	いい人が見つければ出ていくよ	53	34
	自分で決めるから、ほっといて	8	
いるつもり	結婚したくても相手がないもん	23	23
	いつまでもいていいでしょ	18	
その他		10	6
計		181	100

以上を纏めてみると、「親から自立していること」は記述数も少なく、精神的な面と経済的な面のごく限られた範囲のことであった。それに対して、「親から自立していないこと」は、日常生活全般から経済的な面まで、広範にわたっていた。

パラサイトシングルが話題になる時代なので、こうした傾向をみるために、PF スタディー形式で、母親の「あなた、結婚しないで、いつまでもこの家に、いるつもりではないでしょうね」という質問に対して、娘の吹き出しを自由記述させた。その結果を整理したのが、表5である。

まず、「私は絶対結婚して、この家から出ていく、ご心配なく」「そんなわけないよ、ちゃんといい人みつけて結婚するからね」など「結婚して出ていく」と、「そのうち出ていくから心配しないでよ」など結婚に関係なく、「いるつもりない」などをあわせて、「出ていくよ」として纏めた。それが38%あった。それに対して、「いい人が見つかったら出ていくわ、見つからなかったらずーといるからよろしくね」「自分で決めるから、干渉しないで」など、出ていくかいかないかそのときの条件によるものを「条件次第」としてまとめると34%である。「結婚相手がいないから、出ていけない」「いつまでいたっていいでしょ」など、なんとなく出ていくつもりのないのを「いるつもり」とすると、それが23%である。

「出ていく」を親からの自立の指標とすれば、およそ4割ぐらいが自立するつもりで、6割はあいまいな状態である。

(3) 自立に関する日常行動

①きょうだい数と順位など

きょうだい数と出生順位を表6に示した。きょうだい数は2~3人で91%、きょうだいの順位では、長子が51%である。

なお、身近につきあえる幼児がいるのは27%

表6 きょうだいの数と順位

人数	%	順位	%
1	3	長子	51
2	51	中間子	19
3	40	末子	31
4	5		
5	1		

であった。

②親にしてもらっている程度

日常生活のいろいろなことを、どの程度親にしてもらっているかを 5 段階で評定させたが、これを 3 段階にまとめたのが表 7 である。

これをみると、「洗濯」は全面的に親に依存しているが、「朝起こしてもらおう」「車で送り迎え」「悩み事」「遊び、旅行」「衣類等の買い物」など、日常生活では、かなり親にいろいろしてもらっているようである。

表 7 親にしてもらっている程度 %

項 目	%		
	ない	たまに・ときどき	かなり・いつも
3 洗濯をしてもらおう。	1	1	98
5 車で送り迎えをしてもらおう。	12	67	21
9 悩み事を聞いてもらおう。	17	67	16
10 遊びや旅行に連れていってもらおう。	20	69	11
6 衣類や身の回り品を買うとき一緒にきてもらおう。	23	63	14
1 朝、起こしてもらおう。	32	30	38
2 自分の部屋の掃除をしてもらおう。	55	33	12
4 夏物冬物など衣類の管理をもらおう。	57	27	15
8 レポートやゼミの論文などアドバイスしてもらおう。	64	35	2
7 塾やお稽古ごとの情報を集めて紹介してもらおう。	73	24	2

③食事について

食事行動について、まとめたのが、表 8 である。

表 8 食事行動

項 目		%
朝食は	毎日食べる	67
	ときどき食べる	23
	たまに食べる	5
	ほとんど食べない	6
昼食は弁当持参ですか	いつも持参	20
	弁当・コンビニ等	72
	コンビニ・外食	7
弁当作るのは(弁当持参の場合)	自分で作る	5
	自分で作る時もある	14
	いつも作ってもらおう	73
	その他	8
家で炊事をしますか	一人で作る	23
	親と一緒に	29
	ほとんどない	47
	その他	1
食べ物の好き嫌い・嫌いなものは	何でも食べる	37
	がまんして食べる	31
	食べられない	32

「朝食を毎日食べる」が 67%、「弁当いつも持参」20%、「家で炊事をしたことがほとんどない」が 47%、「嫌いなものは食べられない」のが 32%、である。

④お金などに関すること

授業料等の学納金について、調べたのが表 9 である。学納金を知っていて正解したのは、わずか 2%であり、大部分が知らない状態である。

表 9 学納金はいくら %

知っている・正解	2
知っている・間違い	13
知らない	85

アルバイト収入の分布を月額で示したのが表 10 である。アルバイトをしていないのが 27%である。アルバイトをしている場合の収入は、3~4 万円が多く、10 万円と高額なもの 1 人いた。

表 10 アルバイト収入

金 額	%
0 千円	27
1~	1
10~	4
20~	9
30~	18
40~	18
50~	8
60~	6
70~	4
80~	5
90~	0
100	1

注：月額

表 11 携帯電話代

金 額	%
0 千円	1
1~	9
5~	51
10~	25
15~	9
20~	5
25~	0
30~	1

注：月額

携帯電話代の分布を、表 11 に示した。月額で、5 千円から 1 万円未満が 51%、1~1 万 5 千円が 25%である。2 万円以上も若干いる。

1 週間当たりのアルバイト時間と自宅学習時間の分布を示したのが、表 12 である。

表 12 アルバイトと学習の時間

時 間	アルバイト	自宅学習
0	26	32
1~	2	57
5~	10	10
10~	19	1
15~	20	注：1 週間あたりの時間数/数量は%
20~	13	
25~	7	
30~	2	

保育者効力感と親からの自立

2年生の後期、実習も終わり、就職もかなり決まってきたせい、自宅学習はほとんどしていない状態である。それでも、アルバイトにはかなり時間を費やしている。週20時間以上アルバイトしているものが22%もいる。

⑤ダブルスクールについて

お稽古ごとには、60%が通っており、ほとんどがピアノである。ピアノの練習を自力でできず、半数余りがお稽古ごとに頼っている。

表13 お稽古ごと

	%
通っている	60
(ピアノ)	53
(その他)	7
通っていない	40

⑥結婚と仕事

結婚と仕事についての回答は、表13に示した。「子育てしながら仕事を続けたい」のは10%しかない。また、結婚あるいは出産によって専業主婦になってよいのが44%もいる。保育者として仕事を続けることを自立の指標とすると、結婚と仕事の面から見ても、自立はそれほど高くはない、と言えよう。

表14 結婚と仕事

項目	%	%	
続けたい	1. 結婚と仕事を両立させて、子どもを育てながら仕事を続けたい。	10	54
	2. 結婚しても仕事を続けるが、子育ての期間は専業主婦(主夫)になって、子育てが終わってから、また仕事に復帰したい。	44	
やめてもよい	3. 結婚しても仕事を続けるが、子どもができれば、専業主婦(主夫)になってもよい。	27	44
	5. 結婚したら、仕事はやめてよい。	17	
その他	6. 仕事を続けたいから、結婚はしないつもり。	0	3
	4. 結婚と仕事を両立させたいから、結婚しても子どもは欲しくない。	1	
	7. その他	2	

以上、日常行動について、いろいろな面を見てきたが、これらの回答では、親から自立していない回答(表2)を裏付けるような傾向が見られた。

(3) 保育者効力感と親からの自立

保育者効力感については、それぞれの因子の合成得点を求めた。因子合成得点の代表値は、指導力感で、 $\bar{X}=24.9$ 、標準偏差4.0、援助力感では

$\bar{X}=19.4$ 、標準偏差3.7であった。これらと分布を考えて、指導力感では17以下を低群(47人)、22以上を高群(45人)とした。また、援助力感では、22以下を低群(47人)、27以上を高群(52人)とした。

それぞれの因子合成得点による高群と低群によって、これまでの各項目の回答に差があるかどうかを調べた。次のような項目に、差が見られた。

①親からの自立

保育者効力感と親からの自立についての評定との関係を見たのが、表15である。

指導力感の高いほうは、低いほうに比べて、「自立していない」割合が低く、「自立している」割合が高い。友人に関しても似たような傾向である。

援助力感の高いほうは、低い方に比べて、「どちらでもない」が多くなっていて、指導力感のような傾向はみられない。

表15 親から自立していると思うか

		指導力感		援助力感	
		低47	高45	低47	高53
親から自立	していない	70	49	66	55
	どちらでもない	21	31	23	40
	している	9	20	11	6
友人は自立	していない	40	22	32	25
	どちらでもない	43	51	51	49
	している	17	27	17	26

②きょうだい数と順位及び身近な幼児

きょうだい数をみると、指導力感、援助力感ともに、低群のほうが、きょうだい数が2人以下の割合が多い。

きょうだいの順位をみると、指導力感では高群は中間子末子が多く、低群では長子のほうが多い。援助力感では、指導力感とは逆の傾向がみられるが、その差は小さい。

つきあえる幼児が身近にいる割合は、指導力感では高群のほうがやや多く、援助力感ではほぼ同

表16 効力感ときょうだいなど

		指導力感		援助力感	
		低47	高45	低47	高53
きょうだい数	2人以下	60	47	64	45
	3人以上	38	53	34	55
きょうだい順	長子	57	44	47	53
	中・末子	43	56	51	47
つきあえる乳幼児	いる	23	31	28	25
	いない	77	69	72	75

じである。

指導力感は、きょうだい数が多く、中間子末子でつきあえる幼児がいるほうがやや高いが、援助力感、きょうだい数だけが効いている。

③食事行動

家で食事を作ることは、指導力感、援助力感ともに、高群のほうが高い。嫌いなものは食べられないのは、指導力感では低群が高い。援助力感では、それほど差がない。

表 17 効力感と食事行動 %

		指導力感		援助力感	
		低 47	高 45	低 47	高 53
家で食事を作ること	ない	55	29	64	40
	あ	45	71	36	60
食べ物の好き嫌い	食べられない	34	20	34	30
	なし・食べる	66	80	66	70

④効力感とお金など

アルバイト収入やアルバイトの時間などの分布は、かなり偏っているので、ここでは、比較の指標として、中央値 (Me: median) と四分領域 (Q) を使用した。効力感とお金などで、差のあったものを、表 18 にしめた。

表 18 によると、指導力感の高いほうが、通常支出が多く、アルバイト収入が多く、アルバイト時間が多く自宅学習時間も多。

一方、援助力感の高いほうは、アルバイト収入とアルバイト時間がやや多い程度で、通常支出や自宅学習時間は、低群と差がない。

表 18 効力感と食事行動 %

		指導力感		援助力感	
		低 47	高 45	低 47	高 53
通常支出 (千円) / 月	Me	15.0	20.0	20.0	20.0
	Q	19.0	19.0	19.0	19.0
アルバイト収入 (千円) / 月	Me	20.0	35.0	25.0	30.0
	Q	20.0	25.0	25.0	23.3
アルバイト時間 / 週	Me	9.0	11.0	10.0	12.0
	Q	7.5	8.5	7.5	8.3
自宅学習時間 / 週	Me	1.0	2.0	1.0	1.0
	Q	1.0	1.0	1.0	1.3

以上、纏めてみると、指導力感の高群は、低群にくらべて、親から自立していない割合が低く、自立している割合が高い。また、きょうだい数が多く、中間子・末子の割合が高く、家で食事を作ることが多く、嫌いなものを食べない割合が低く、

通常支出が多く、アルバイト収入が多く、アルバイト時間が多く、自宅学習時間も多、と言う傾向がある。

援助力感の高群は、低群に比べて、親から自立していない割合が低い、どちらでもないも多い。また、きょうだい数が多く、長子の割合がやや多く、家で食事を作る割合が多く、アルバイト収入がやや多く、アルバイト時間もやや多、と言う傾向が見られた。

考 察

(1) 保育者効力感について

保育者効力感尺度を因子分析した結果、指導力感と援助力感の 2 因子に分かれた。既成の保育者効力感尺度に不足していると思われる面を適当に 5 項目加えたまでで、意図的に 2 因子を目指したわけではない。しかし、結果として、面白い 2 因子に分かれた。これについては、今後さらに検討する必要がある。

さて、各項目への回答を見ると、予想していたよりも「思う」回答が少なく、「?」「思わない」の回答が多かった。このことは、ひらたくいえば、保育者としてやっていける自信があまりないことを示している。

「思う」の選択率が高い項目は、指導力感では「保育環境を整える」57%だけで、これはあらかじめ準備できることである。援助力感では「子どもが安心して寄ってきやすい」72%、「子どもと気が通じ合う」59%、「子どもの動きはすべて面白い」56%などであり、これらは自分に備わった資質である。

したがって、子どもの状況に応じて、臨機応変に働きかけていくような項目は、「思う」回答が少ない。学生たちの「保育的行為をとることができる信念」はあまり高くない、と言えるだろう。

こうした学生の回答傾向は、保育者養成という視点からは、少しもの足りない気がするが、別の見方をすれば、これらの項目は、実際のところ、保育現場を経験しないと分からないことである。だから「?」「思わない」回答が多くても、仕方がないことかもしれない。

保育者養成において、援助、指導、などの言葉

がよく使われるが、学生には、意味が分からないか、誤解している場合が多い。とくに援助などの言葉にこめられた理念は、保育経験を積み上げていくなかで、成長する保育者が徐々に分かってくことであり、学生たちに分からせることは、困難かもしれない。

学生たちは、子どもの心の動きがほとんど分からない状態で、指導、援助と言った言葉のもとに、ともかく子どもを動かそうとする。そして、子どもが自分の思うように動かないと、落ち込む傾向がある。

そうした状況を考えると、学生が「子どもが安心して寄ってきやすい」、「子どもと気が通じ合う」、「子どもの動きはすべて面白い」など、素朴に思っている資質を大事にして、自信をもたせてやりたい。保育者となって、思うように指導、援助ができなくても、ともかく子どもと心を通じ合うことを大事にしていけば、そのうちに、子どもが動き出す姿が見えてきて、指導や援助のタイミングが分かってくると思う。

子どもに働きかけるよりも、まず、子どもと共に生きることを大事にする保育者が、出発であると思う。

(2) 親からの自立について

学生たちの多くは、「自分は親から自立していないほうだ」と思っている。この調査を企画するひとつのきっかけは、これまでの調査で、学生たちの自我が未成熟であることが分かり、それは親から自立していないためである、と考えたからである。自我の未成熟と親からの自立を直接対応させるような資料は、ここでも得られなかったが、親からの自立に関する評定、日常行動の実態などから、親から自立していない状態がわかった。そして、自我の未成熟と親から自立していない状態は、ほぼ対応していると解釈できる。

貧乏な時代に学生生活を送った者にとって、もっともショックな資料は、学納金を知っているものが、わずか2%しかいない、ということである。銀行振り込みという間接的な支払い方法の影響もあるが、これほど知らない状態をどう見たらよいのだろうか。

これは、親からお金を出してもらって、自分の

意志によって短大で学んでいる、と言う自覚が希薄であることを示している。それはまた、学生たちにとって、短大は在籍して資格を取るための場にすぎず、自分が勉強する場である、という自覚に欠けることを意味している。アルバイトの時間がかなりあっても、自宅学習時間はほとんどない資料が、これを物語っている。

日常行動の調査から見ると、日常生活において、かなり親に依存している生活をしているようである。これは、学生の親たちが有能になってきて、家事全般はもちろん、車の運転から、レポートのアドバイスまで、できるようになってきて、つい、親がやってしまう結果ではないだろうか。

たとえば、家で炊事をするのがほとんどない者が47%もいる。このことに関してある学生に聞いてみると、母親がいれば、炊事に関しては母親の方が早くて上手で美味しいから、自分だけでやる気がしない、ということであった。

このように親から自立していない生活をしている学生が、保育者になって、大丈夫だろうか。たとえば、食事行動に関して見ると、朝食を毎日食べているのは67%で、33%は毎日食べていない。また、嫌いなものは食べられないのが32%もいる。これで、乳幼児の食事のしつけができるのだろうか、心配になってくる。

(3) 保育者効力感と親からの自立について

まず、指導力感についてみると、指導力感の高群は、低群にくらべて、親から自立していない割合が低く、自立している割合が高い。したがって、指導力感と親からの自立は、関係があるといえよう。

また、指導力感の高群は、低群にくらべて、きょうだい数が多く、中間子・末子の割合が高く、家で食事を作ることが多く、嫌いなものを食べない割合が低く、通常支出が多く、アルバイト収入が多く、アルバイト時間が多く、自宅学習時間も多い、と言う傾向がみられた。

この雑多な傾向から、指導力感の高いものは、低いものに比べて、何が違うと考えたらよいか。

これらの項目を眺めていると、指導力感の高いほうが、低いものよりは、生活力がある、と言う気がする。すなわち、きょうだい関係でみると、

数が多く、中間子・末子であるために、鍛えられる機会が多い。食事を作ったり、嫌いものでも食べる傾向は、食生活に困らないことを示す。アルバイトも自宅学習も多いのは、効率よくいろいろなことをこなす力があることを示している。

これらの結果から、大まかに言えば、親から自立して、家事労働やアルバイトなど雑多なことをやっていく生活力が旺盛なほど、指導力感も強くなる、と言うことである。逆に言えば、親がかりで暮らしては、指導力感が弱くなるのである。

援助力感の高いほうは、低い方に比べて、親から自立していない割合がやや低いが、どちらでもないも多い。また、きょうだい数、食事を作る、アルバイトなどでは、指導力感と似たような傾向があるが、長子の割合がやや多く、嫌いなものを食べる、自宅学習時間などでは、高群と低群に差が見られなかった。したがって、援助力感、指導力感ほど、親からの自立や生活力に関係がある、とはいえないようである。

なお、指導力感と援助力感それぞれの低群と高群と、ここにあげた以外の調査項目の回答との関連を、すべて調べたのだが、期待はずれで、ほとんど関連がなかった。もともと、こうした項目に関して、本学の学生は比較的等質集団であり、分布が散らばっていない場合が多いことも、その一因であろう。

(4) 保育者養成と日常生活の訓練

かつて教員養成大学に勤めていた頃、よく学生たちに、次のようなことを言っていた。

教師は、結婚して、自分の子どもを育てることによって、成長できると思うから、是非、夫婦関係のよい結婚をして、子どもを育てながら、勤めて欲しい。そのためには、家事労働を効率的に処理する能力が必要だ。だから、男子も女子も学生のうちの家事労働に参加して、家事処理能力を高めて欲しい。

このときの私の発想は、ともかく多忙な教師業を共働きで続けるには、短時間に家事をこなす能力が必要だと考えたからである。

今回の調査結果から、もう少し幅広く、保育者養成の問題として、考えてみたい。

すなわち、保育者に家事労働を効率的に処理す

る能力が必要なのは、単に、共働きにおいて、短時間に家事を処理する必要からだけでなく、保育者としての総合的能力を身につける上で、必要であると考えた。

この調査の結果をみると保育者として、子どもの状況に応じて、敏捷に対応し、処理する力に関して、どうも自信がないようである。それは、学生たちが日常生活を親まかせにして、家事労働で総合的に心身を使う訓練を受けていないためではないだろうか。

たぶん齊藤喜博だと思うが「教師の資質でもっとも大事なことは、育ちがよいことだ」と書いていたのを読んだことがある。長年教員養成にたずさわっていて全く同感である。「育ちがよい」ことを私なりに分析すると、親に愛されて育てていること、よくしつけられていることの2つである。家事労働や礼儀作法をきちんとしつけられている学生のほうが、雑事の処理能力があり、困った事態を乗り越える力があるような気がする。

ところで、家事労働と言っても、洗濯は洗濯機任せで、頭も体も使わない。掃除は、掃除機をはじめ、種々の掃除用具が開発されて、これも多少体を使うにせよ、あまり頭を使わない。総合的に心身を使うのは、整理整頓と炊事の2つではないだろうか。整理整頓については、今回の調査で扱わなかったので、炊事を題材に考えてみよう。

保育者効力感のなかでも、指導力感を見ると、「思う」の回答がすくなく、指導力に自信がないことがうかがわれる。一方、「家で食事を作ることがほとんどない」のが47%もいる。そして、指導力感の高いほうが、家で食事を作る割合が高い。

こうした、結果をあわせて考えると、保育者養成にあたって、学生たちに、家事労働を親任せにしないで、自分でやること、特に、食事を作ることを積極的にやるよう、奨めたい。家庭において上げ膳据え膳で生活し、何もかも親に世話してもらい、ただ学校に通っているだけでは、いくら学校の勉強をしても、保育者として有能にならない気がする。

短大の教師として、学生の家庭生活まで教育することは不可能であるが、日常生活をきちんとすることが保育者の資質として、大事であることを

保育者効力感と親からの自立

伝えていきたい。そして、せめて自分の授業だけでも、学生を厳しくしつけ、学生の日常生活を訓練していきたい。

付 記：調査の企画、実施、集計整理にあたって、専攻科保育専攻の2002年度学生栗島実穂、伊藤栄里子、伊藤はなよ、不破美穂子、2003年度学生高菜いずみ、松本都の協力を得た。記して感謝したい。

文 献

岩井勇児 1998 保育科・幼児教育科学生による授業評価—無記名・記名、自己評定・他者評定、成績等からの検討— 名古屋柳城短期大学研究紀要, 2, 71-89。

岩井勇児 1999 保育科学生のクラスの雰囲気と授業評価 名古屋柳城短期大学研究紀要, 21, 63-73。

岩井勇児 2000 保育科学生の保育者観の形成 名古屋柳城短期大学研究紀要, 22, 137-149。

岩井勇児 2001 保育科学生の保育者観の形成(続報) 名古屋柳城短期大学研究紀要, 23, 183-194。

岩井勇児 2002 建学の精神「愛をもって仕えよ」に関する学生の意識 名古屋柳城短期大学研究紀要, 24, 197-213。

三木知子・桜井茂男 1998 保育専攻短大生の保育者効力感に及ぼす教育実習の影響 教育心理学研究, 46, 203-211。

—資料—

調査STE02

2002年11月29日調査実施

2年 組

名古屋柳城短期大学専攻科保育専攻

この調査は、みなさんの日頃の生活と保育者についての考え方を、知るためのものです。また、保育専攻学生の研究の1つでもあります。回答には正しいとか誤りとかはありません。あなたが、思ったことをありのままに書いて下さい。選択肢のあるものは、数字や文字を選び○をつけて、文章を記述するところは、自由に書いてください。指示があつてから始めて下さい。

I 通学は 1. 自宅通学 2. 自宅外通学

a. 自宅通学の人に：自宅であなたの立場はどちらですか。

1. 親子のうちの子ども 2. 夫または妻

b. 自宅外通学の人に：あなたの住まいはどちらですか。

1. 1人暮らし 2. 親戚等の家で 3. その他 ()

c. あなたも含めてきょうだいは何人ですか。例にならつて書いて下さい。例 (姉、兄、私、弟 計4人)

() 計 人)

d. 身近につきあえる乳幼児がいますか。 1. はい 2. いいえ

「はい」の人に： 1. 幼い弟妹がいる 2. 甥、姪が同居または近くにいる 3. その他 ()

II 下記の日常生活で、あなたが親にしてもらっている程度について、5段階で記入してください。

いつもしてもらう(5)、かなりしてもらう(4)、ときどきしてもらう(3)、たまにしてもらう(2)、してもらわない(1)

1. 朝、起こしてもらう。 ()
 2. 自分の部屋の掃除をしてもらう。 ()
 3. 洗濯をしてもらう。 ()
 4. 夏物冬物など衣類の管理をしてもらう。 ()
 5. 車で送り迎えをしてもらう。 ()
 6. 衣類や身の回り品を買うとき一緒にきてもらう。 ()
 7. 塾やお稽古ごとの情報を集めて紹介してもらう。 ()
 8. レポートやゼミの論文などアドバイスしてもらう。 ()
 9. 悩み事を聞いてもらう。 ()
 10. 遊びや旅行に連れていってもらう。 ()

III 食生活について

それぞれ、当てはまるもの1つを選んで○をつけてください。

a. 朝食は食べていますか。

1. 毎日食べる。 3. ときどき抜く。 2. たまに食べる。

1. ほとんど食べない。

b. 昼食は弁当持参ですか。

3. いつも弁当持参。 2. 弁当のときやコンビニのときがある。

1. いつもコンビニの弁当や外食など

[3, 2]の人に：弁当持参の場合、自分で作りますか。

3. いつも自分で作る。 2. 自分で作るときもある。

1. いつも作ってもらう。

c. 休みの日など、家で炊事をしますか。

3. 1人で家族の食事をつくることがある。

2. 親と一緒に食事をつくるが、1人でつくることはない。

1. 家で食事を作ることや手伝うことはほとんどない。

d. 食べ物の好き嫌いがありますか。

3. 好き嫌いほとんどなく、何でも食べる。

2. 嫌いなものはあるが、がまんして食べる。

1. どうしても食べられないものがある。それは何？

()

IV お金のことについて

a. 学納金(入学金、施設費、授業料)の金額を知っていますか。

2. 年額を知っている(1年次 万円 2年次 万円)

1. よく知らない。

b. 学納金は、誰が支払っていますか。

1. 全額保護者 2. 保護者+自分(どのくらい)

3. 全額自分(財源は)

c. 高額の支出や携帯電話の費用は除いて、ふつうの生活で、ふだん1ヶ月平均でいくぐらいのお金をつかいますか。

(およそ 万 千円)

d. 携帯電話で1ヶ月平均いくぐらいつかいますか。その費用は誰が負担しますか。(およそ 万 千円)

1. 全額自分 2. 定額(万 千円)親負担+自分

3. 全額親 4. その他 ()

e. 家からお小遣い(自宅外の方は仕送り)として1ヶ月平均いくぐらいもらっていますか。(およそ 万 千円)

f. アルバイト収入は1ヶ月平均でいくぐらいになりますか。

(およそ 万 千円)

g. 現在のアルバイトの職種はなんですか。全部書いてください。

()

h. アルバイトの時間は、1週間あたりで何時間ぐらいですか。

(1週間あたり 時間、時給 円)

i. 自宅学習の時間とアルバイトの時間をくらべてください。。

(自宅学習の時間 1週間あたり 時間)

1. アルバイトのほうが多い 2. 同じぐらい 3. 学習のほうが多い

j. 現在のアルバイトが、保育者になることにプラスになっている面がありましたら、下の枠内に書いてください。

保育者効力感と親からの自立

V ダブルスクールについて

- a. 現在、本学以外にお稽古ごとや講習会などに通っていますか。
イ. 通っている（選んだ人は下記に○を、複数可） ロ. 通っていない
1. ピアノ 2. (公立等受験) 予備校 3. 料理・菓子 4. 茶道 5. 華道
6. 外国語会話 7. 講習会() 8. その他()
- b. 習いに行くのは自分の意志ですか。
1. 自分の意志 2. 自分の意志と親の勧め 3. 親に勧められて
- c. 授業料などの費用は
1. アルバイトなど自分で 2. 自分と親などで 3. 親などが負担

VI 職業について

- a. 現在、就職がきまっていますか。 1. 決まっている 2. 未定
・決まっている人はどこ：1. 私立(幼・保) 2. 公立(幼・保)
3. 進学() 4. 一般企業 5. その他()
・未定の人は志望を1つ：1. 私立(幼・保) 2. 公立(幼・保)
3. 進学() 4. 一般企業 5. その他()
- b. 就職したら、その職業をずっと続けるつもりですか。
1. 定年まで続けたい。 2. 結婚まで。 3. 結婚して子供が生まれるまで。
4. その他()
- c. 就職したら、一人暮らしをしたいと思いますか。
1. 一人暮らしをしたい。 2. 家から勤めたい。
3. その他()
- d. 給料をもらったら、家に生活費を入れますか。
1. 生活費を入れるつもり。() 円くらい
2. 生活費をいれない。(理由)

VII 結婚について

- a. 結婚と仕事についてどう考えていますか。次の中から自分の考えに近いものを1つ選択してください。
1. 結婚と仕事を両立させて、子どもを育てながら仕事を続けたい。
2. 結婚しても仕事を続けるが、子育ての期間は専業主婦(主夫)になって、子育てが終わってから、また仕事に復帰したい。
3. 結婚しても仕事を続けるが、子どもができれば、専業主婦(主夫)になってもよい。
4. 結婚と仕事を両立させたいから、結婚しても子どもは欲しくない。
5. 結婚したら、仕事はやめてよい。
6. 仕事を続けたいから、結婚はしないつもり。
7. その他()
- b. 結婚する場合は、いつまでに結婚したいと思いますか。
1. 20代前半まで 2. 20代後半まで 3. 30代前半まで
4. 30代後半 5. 40代～
- c. 子どもは欲しいですか。
1. 結婚して子どもが欲しい。() 人ぐらい
2. シングルで子どもが欲しい。() 人ぐらい
3. 欲しくない。(理由)

VIII 保育者として

下に、保育者について書いてあります。これを読んで、自分のことをどう思いますか、5段階で評定してください。

- 非常にそう思う(5)、ややそう思う(4)、どちらともいえない(3)、あまりそうは思わない(2)、ほとんどそう思わない(1)
1. 子どもにわかりやすく指導することができると思う。()
2. 子どもの能力に応じた課題を出すことができると思う。()
3. 保育プログラムが急に変更された場合でも、それにうまく対処できると思う。()
4. どの年齢の担任になっても、うまくやっていけると思う。()
5. クラスにいじめがあったとしても、うまく対処できると思う。()
6. 保護者に信頼を得ることができると思う。()
7. 子どもの状態が不安定な時にも、適切な対応ができると思う。()
8. クラス全体に目をむけ、集団への配慮も十分にできると思う。()
9. 1人1人の子どもに適切な遊びの指導や援助を行えると思う。()
10. 子どもの活動を考慮し、適切な保育環境(人的、物的)を整えることに十分努力ができると思う。()
11. 子ども心の動きを読みとることができると思う。()
12. 子どもが安心してそばに寄ってきやすいほうだと思う。()
13. 子どもとなんとなく気が通じ合うことが出来ると思う。()
14. 子どもは必ず私の言うことを聞いてくれると思う。()
15. 子どもの動きは、どんなことでも、すべて面白いと思う。()

IX 親からの自立について

- a. あなたの現在の生活、あるいは将来のことなどについて、親から干渉されたり、叱られたりすることがありますか。ありましたら、下の枠内に書いてください。

父親から干渉されること・叱られること

--

母親から干渉されること・叱られること

--

- b. あなたは親から自立しているほうですか。次の5段階評定であてはまる数字に○をつけてください。

5. 親から自立している
4. どちらかといえば自立している
3. どちらともいえない
2. どちらかといえば自立していない
1. 親から自立していない

- c. あなたの、親しい友人は、親から自立しているとおもいますか。上記の5段階で当てはまるところに○をつけてください。
友人の、親からの自立は(5 4 3 2 1)

d. 親からの自立を考えると、あなたのなかでも自立していると思う面と、自立していないと思う面が、あると思います。それぞれ、どんなことか、下の枠に書いてください。1つの枠には1つの内容を書いて下さい。

私が親から自立していること

私が親から自立していないこと

e. 次の絵を見て、下の質問に回答してください。



e. 上の絵では、ある母親があなたと同年代の子どもに、つぎのようなことを言っています。

「あなた、結婚しないで、いつまでもこの家に、いるつもりではないでしょうね。」

子どもの吹き出しに、どんなセリフを入れたいと思いますか。次の枠の中に、思いついたことを書いて下さい。

--

ご協力ありがとうございました。

Pre-School-Teacher-Efficacy and Independence from Parents

Iwai, Yuji*

保育者効力感と親からの自立の関係を調べるために、保育者効力感尺度に手を加えて、指導力感と援助力感の2因子を得た。親からの自立に関しては、評定尺度、自由記述、自立に関連する日常生活の行動などを調査した。調査対象は、保育科の学生である。

保育者効力感尺度の回答をみると、子どもの状況に応じて、臨機応変に対応することには、自信がないようである。また、親からの自立に関しては、自立していないと評定している者が多い。日常行動においても、かなり親に依存して生活しているようである。

指導力感と親からの自立の評定に関しては、プラスの相関が見られた。また、指導力感の高いほうが、低いほうに比べて、食事を作る、嫌いなものでも食べるなどの割合が高く、アルバイトの収入と時間、自宅学習時間などが多い傾向が見られた。これらから、保育者養成に日常生活の訓練が必要なことを考察した。

キーワード：保育者効力感, 指導力感, 援助力感, 親からの自立, 保育者養成, 日常生活